

---

# **ブリ - チ - 500年前の精霊挺**

健神

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ブリ・チ・500年前の精霊挺

### 【Zマーク】

Z9296G

### 【作者名】

健神

### 【あらすじ】

精霊挺の500年前 - そしてまだ王族特務零番隊が表の世界で活躍してたころ - そしてウエコムンドという世界とソウルソサエティとの初めての激突 - ウエコムンドのエスパードと護挺十三隊の隊長格の激闘 - はたして生き残るのはどっちか - 。

## プロロ・グ（前書き）

頑張って書くので応援よろしくお願いします。

## プロローグ

汝、あらゆる力を欲したれば力を求めよ  
ソウル・ソサエティ

「おい、7番隊がやばいぞ」

「ケガ人を早く運べ・」

隊士たち慌ててかけまわっている。

なぜか？

それは虚が精霊艇内に侵入してきたからだ。

だがただの虚ならばここまで大惨事になることもないのだが・・・

なんと相手はアランカル級の虚たちだ。

「おい、さっさと持ち場にいけ」

ぴりぴりとした様子で十番隊とかかれた羽織りを背負つたものが言った。

「なぜ、こんなにもの大群が押し寄せてきたのじゃ」

一と書かれた羽織りを背負つたものは静かにだがどこか力強く言つた。

そしてその瞬間 -

「カツ -」

ドゴ - -ン - - -

## 第1章 - 激動の兆候（前書き）

投稿遅れますが頑張って書くので応援よろしくお願いします。

## 第1章・激動の兆候

ソウルソサエティで事件があつたころ、

ウムンド、

「あ・? なんであいつらが行つた?」

黒髪で長身、目の中が黒く深い憎しみが感じられる風貌だった。

その問いに側にいた男はこいつ答えた。

「アジュ・カスを強くするためではないのか?」  
そう答えた男は他の奴らと違う恰好をしていた。

そう・背中に

「」と書かれたた羽織りをきていたのだ。

「はつお前に何がわかるんだよ?」

黒髪の男が挑発するように言つた。

そのとき、

「ぐだらない争いはよせ、グライ、砂上」

髪の色は紫、そして腰には赤色の刀をさしていた。

「わりい、シユウ」

二人は声をそろえていった。

どうやらここにいるなかではトップらしい -

シユウは皆に言った -

「今、我らは、総勢230名だ、その内最上級のブアストロ・デ級は私を含めてまだ8人しかいない、最低でもあと5人はいないと精靈挺・・・ソウルソサエティは壊滅でいいと思う」

シユウの話を聞いて砂上は -

「じゃあなぜアジュ・カス級をわざわざソウルソサエティに送ったのだ？」

シユウは -

「それはソウルソサエティの力量をはかるため、もしくは戦力を少しでも削るためですよ」

砂上は納得した様子だったが再び振り向いて、

「では、万が一、ソウルソサエティが我らの攻撃をかんづいて王族の・王族特務の奴らがでてきたら -」

周りがざわめいた -

「静かにしてください」

シユウが静かにだが威厳のある声で言つた -

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9296g/>

ブリ・チ - 500年前の精霊挺

2010年10月9日22時43分発行